

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101843		
法人名	有限会社 てるてるぼうず		
事業所名	グループホーム てるてるぼうず		
所在地	青森市高田字川瀬334-5		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町村受理日	平成29年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成28年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と交流する場があり、ホームの行事にもボランティアとして参加して下さったり、地域の行事の案内をもらい、ホームからも参加させてもらっています。 ・入居者様個々の「気持ち」を大切に、その気持ちに寄り添うケアを全スタッフが心がけています。 ・今年の抱負をスタッフ個々に掲げ、それぞれのスキルアップを図っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>清掃活動や防災訓練、盆踊り、文化祭等の地域行事に積極的に参加している他、ホームの行事には婦人会のボランティアをはじめ、多くの地域住民が参加しており、日頃から密に交流を行っている。また、ホームには「子ども110番」のステッカーを掲示し、子供達が危険に遭遇したり、困り事がある時等、安心して立ち寄り、保護する家としても提供している。</p> <p>ホームには職員一人ひとりの今年の抱負や毎月の目標を掲示し、より良いサービス提供に努めており、利用者は家庭的な雰囲気の中で、自分らしく、明るく、穏やかな日常を過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフは内容をきちんと理解しており、毎週月曜日の朝礼時、当日の出勤スタッフ全員で理念を唱和している。	利用者が地域の中で役割を持ち、自分らしく、健康で明るく日常生活を送れるよう、ホーム独自の理念を掲げて支援している。理念はホーム内に掲示している他、朝礼時に唱和する等して共有し、日々のサービス提供に反映できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やホーム内の行事へは、声をかけ合い、実施している。 行事では町内会や小学校とも交流を持ち、入居者もとても楽しみにしている。	町内会に加入し、清掃活動や防災訓練、盆踊り、文化祭等の地域行事に積極的に参加している他、婦人会のボランティアや伝統行事の「高田の獅子舞」披露の訪問等もあり、日常的に交流している。また、小学校の各行事へ参加し、児童が育てたりんごや交通安全のマスコットをいただく等、心温まる交流も行っている他、ホームには「子ども110番」のステッカーを掲示し、子供達に何かあった時に受け入れる体制を整え、地域における役割も担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加している町内の婦人会の方や、近くの美容室等に来所した際に、認知症の方の関わり方について話し、理解をしてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、開催している。 ホームでの入居者の生活の様子や行事、予定等を報告し、話題は限定せずに意見交換をしている。 また、自己評価及び外部評価の結果も説明している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、1ヶ月前には案内状を送付し、多くのメンバーの参加を促している。会議では、利用者の様子や行事、自己及び外部評価への取り組み状況等について報告している他、地域とホームの行事の調整を図ったり、福祉に関する相談を行う等、活発に意見交換を行い、サービスの質の向上に活かすよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市等からの連絡には素早く対応している。また、ホームからの情報もいち早く伝えるようにしている。	市職員や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、ホームの現状を理解していただき、日頃から相談をしたり、情報交換ができる関係を築いている。また、自己評価及び外部評価結果や目標達成計画を提出・報告している他、パンフレットも配布している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容等を全スタッフ理解している。皆で過ごす時間を多く持つよう心がけている。音には素早く反応するよう、全スタッフが心がけている。(センサーマットの使用もしている。)	マニュアルを整備している他、内部研修を行い、全職員が身体拘束の内容や弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠しておらず、鈴の取り付けやセンサーマットを配置して、安全確認に努めている。また、無断外出時には、近隣住民や駐在所等から協力が得られる体制となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて学ぶ機会を設けている。虐待防止に向けて、スタッフの心が健康であるように、ストレスを溜めないよう配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を通して理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の該当箇所を示しながら、口頭で説明している。自立支援に関する事項、それに伴うリスクに関しても十分な説明と同意を得て、契約を結んでいただくよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。面会時や電話連絡の際、不安や不満を聞き、要望はできる範囲で聞き入れている。	面会時や電話の際に、家族が意見や相談、苦情等を気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。また、利用者については日頃の関わりの中で、自然に話をして表現していただくように努めており、出された要望等は職員間で話し合い、迅速に対応できるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とスタッフが一對一で面談する時間を設けている。 月1回の管理者ミーティングの際に話し合い、反映させている。	定期的に職員会議を行い、ホームの運営や日々のケアに関する意見交換を行っている他、年に数回、管理者と職員が1対1で面談を行う等、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。また、職員の要望により勤務体制を検討する等、職員が働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年2回の賞与は、人事考課を取り入れて、スタッフ個々の評価を反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の場を設け、情報交換に努めている。地域ケア会議へも参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に限らず、入居者の訴えに対して傾聴するよう努めており、安心感を持ってもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に今までの生活状態や心身状態を聞き取り、問題となっている事や要望を明確にし、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族のニーズを見極め、入居者本位のサービスが受けれるよう考え、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや食器拭き、食事準備、洗濯物たたみ等を共に行うことで、双方向の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、通院への同行、状態の変化等、連絡や相談を行い、協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時や電話等で関係を継続していただいている。	家族や関係者から情報収集を行い、入居までの生活歴を把握し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。入居後は、家族の面会時や利用者との日々の関わりの中で聞き取りを行い、家族の協力も得ながら墓参りに行く等、関係継続の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中心となるリビングにて、皆で過ごしていることが多い。 役割(野菜の下処理や洗濯物たたみ等)を通して、孤立しないよう支え合いながら過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話相談にて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通して、本人の要望等を確認するよう努めている。 家族からも情報を得て、その人に合った支援を心がけている。	利用者の表情や行動を観察している他、居室で1対1で話す機会を設け、担当職員が思いや希望、意向の把握に努めている。また、担当以外の職員からも情報収集し、必要に応じて家族や関係者からも聞き取りを行いながら、利用者の思いや希望、意向の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	キーパーソンとなる家族からの情報、以前利用していた施設・病院からの情報等を全スタッフで共有し、活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活のリズムを全スタッフで把握できるよう努め、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの聞き取りや家族の意向、カンファレンスで話し合った事を反映させ、計画を作成している。	利用者や家族の意向に基づき、職員や関係者の意見や気づきも反映させて、利用者本位の介護計画を作成している。実施期間を6ヶ月と定め、期間終了後に見直しを行っている他、利用者の身体状況等に応じて随時の見直しも行い、利用者がその人らしく暮らし続けることができるよう、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況をチェックし、カンファレンスにてスタッフ同士で共有し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者から要望があった際には家族の協力を得て、入居者と電話で関わりを持っていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の祭りや小学校の行事への参加の他、月1回、ボランティアが訪問し、昔話の語りを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の往診や外来受診を活用し、突発的な受診にも対応している。本人及び家族の要望により、他の医師による診察を希望する場合にも対応している。	これまでの受療状況を確認し、入居前の医療機関を継続して受診できるよう支援すると共に、利用者や家族の希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、通院方法や受診結果の伝達方法は家族と話し合いの上で決めており、受診結果に変化が見られる場合等は家族に報告し、医療機関との連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診契約者は往診担当の看護師と、24時間体制で支援を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日常生活の留意点等、適切な情報を提供している。 医師と相談しながら早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び必要時に、ホームでできる事、できない事を説明している。 家族の協力や理解を得るようにしている。	指針を作成し、重度化や終末期におけるホームの方針を明確しており、ホームでできる事、できない事を説明している。また、家族の希望により、ホールで過ごすことが好きな利用者のために、協力医療機関や訪問看護師との連携の下、他の利用者の了解を得て、ホールでの看取り支援を家族と共に行った実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員を取得したスタッフによる内部研修を通し、共有している。 町内の消防団の方の協力を得て、最新の技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し、運営推進会議を通して、地域住民の協力が得られるような関係づくりを行っている。	職員と利用者が一緒に年2回、避難訓練に取り組んでおり、運営推進会議の開催日に訓練を行うことで、メンバーに理解していただき、意見等をいただきながら、地域との協力関係を構築している。また、業者委託により、定期的に設備点検を行っている他、日頃から避難路の確保に気を配っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「入居者は人生の大先輩である」と尊重し、話を傾聴して、優しい対応を心がけている。守秘義務や個人情報の取り扱いについても配慮している。	ホームでは、個人情報の取り扱いや守秘義務について勉強できる機会を設けている他、職員は利用者一人ひとりの人格や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら、日々のサービス提供に努めている。また、日々のケアや声かけ等で気になる対応があれば、その都度、職員同士で声をかけ合ったり、管理者から注意をし、ホーム全体で確認や改善に向けた取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して、本人の思いや要望を聞き出せるよう努めている。食事のメニューを作成する時は食べたいもの等を聞き、自己決定できるような場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れのスケジュールはスタッフが決めているが、無理に勧めず、できる事やできない事、その他、精神状態にも配慮し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の方は自由に着こなしをしていただき、介助の方は天候や行事等を考慮して支援している。定期的に美容・理容の利用を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日三食、スタッフが同席して、音楽を流しながら食事を摂っている。食事の準備や後片付けは、入居者とスタッフが共に協力しながら行っている。	嗜好調査を行い、栄養士が献立を作成している他、栄養バランスに配慮した食事を提供し、苦手なものには代替食を提供している。利用者と職員は、心地よい音楽が流れる中で会話を楽しみ、毎食一緒に食事を摂っている。また、利用者の状況や意思等に応じて、食事の下拵えやテーブル拭き、配膳、後片付け等を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量をチェックし、記入している。栄養士による献立作りとなっており、季節の行事食等、味や見た目にも工夫を凝らしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。 できる事は自分で、できない事は介助で行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄の訴え時には、安全を考慮し、スタッフ2名で行っている。 オムツ着用者の排泄チェック表を作成し、回数や量を記録している。	排泄状況を記録して、一人ひとりのパターンに合わせたトイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう、自立に向けた支援を行っている。日々の状況を観察し、紙おむつやパット使用の変更等が必要な時は話し合い、随時見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂り入れた食事となるよう配慮している。 排便の数や状態、量、水分を記録して、スタッフ間で共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	基本的には入浴日を決めているが、希望があれば毎日入浴できる体制をとっている。	基本的に週2回の入浴を行っている他、希望に応じて、いつでも入浴できる体制を整えている。また、利用者の体調等に応じて足浴や清拭を行う等、柔軟な対応に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者の状態に合わせて、休息や臥床している。 また、本人の落ち着く場所で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人記録等に薬剤情報カードを把握し、いつでも確認できるようにしている。 服薬内容について不明な点があれば、薬剤師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き等のお手伝いを、入居者自ら進んで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿えるように努めている。また、必要に応じて、家族にも協力をしていただいている。	天気の良い日に近隣を散歩したり、敷地内のベンチに腰を掛けておやつを食べる等、日頃から外に出る機会を設けている他、ショッピングセンターに買い物に行ったり、受診の帰りにコンビニに立ち寄る等、利用者の気分転換につながるよう、外出支援を行っている。また、ホーム行事として、お花見や紅葉見物等にも出かけ、利用者が楽しめるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、小額のお金を持っている入居者もいる。買い物時のお金の受け渡しは、見守り、声がけにて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、スムーズに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節を感じられる装飾を行っており、できる範囲で入居者に手伝っていただいている。2ユニット違う装飾であるため、入居者はお互いの装飾も楽しみにしている。	ホールは明るく、ダイニングテーブルセットやソファ、テレビ等が配置され、利用者が食事をしたり、体操やレクリエーションを楽しむのに広い造りとなっている。また、季節感あふれる作品や花で装飾がなされている他、和室も設けられ、懐かしい鏡台や茶箆筒が置かれている。職員がたてる物音やテレビの音量は適切で、温・湿度も適切に保たれ、利用者が快適に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファに座り、談話して過ごしたり、食卓を囲んで談話したり、様々な形でコミュニケーションをとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物品を居室に持ち込んでいただくよう、入居時から家族に働きかけており、自由に使用してもらっている。	居室には、利用者が穏やかに、居心地良く過ごせるよう、位牌やぬいぐるみ、時計、愛読していた本等、馴染みの物が持ち込まれている。また、持ち込みが少ない場合は、職員と一緒に作った作品や写真等を飾り、好みの居室となるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を掲げたり、暖簾を下げて、自分の居室だと理解してもらうよう心がけている。		